



りっしゅん

立春（3日）… 節分に豆をまき、鬼を追い払うと春がやって来ます …

今年は2月2日が節分、3日が立春というとても珍しい暦となりました。124年ぶりだそうです。まだ肌寒い日が続く中でも、あちらこちらに春を告げる命の営みを見付けることができます。皆さんも春を探してみませんか。

### <黄鶯睨睨 うぐいすなく 2月8日~12日>

立春の次候は「黄鶯睨睨」です。うぐいすの鳴き声はご存知「ホーホケキョ」ですが、最初からきれいにさえずるわけではなく、学習して次第に上達していくそうです。確かに途中で止まったり、突っかかりたりする鳴き声を聞いたことがあります。若鳥がさえずりを学習する過程で鳴く不完全なさえずりのことを「ぐぜり鳴き」と呼ぶのだそうです。

### <先生と一緒に楽しい年少児>

生活発表会では、劇を見ていただきますが、各学年で押さえるポイントはだいぶ違います。年少児は、先生との信頼関係が一番です。先生の言葉掛け一つで、部屋が森や温泉になり、お面を被ればすっかり動物になり切って掛け合いを楽しみます。声や動きが揃う場面やダンスをうまくつないで飽きないように表現遊びから劇ごっこにしていきました。

### <動きが分かってくと自信をもてる年中児>

年中児は、年少ほど単純に先生の言葉で動くわけではなく、見られることへの意識も出てくるので、恥ずかしがる様子も見られるようになります。劇づくりの過程でお面や衣装などがあることで、役になったつもり動きを支え、リズムカルなセリフや動きが決まってくることで自信をもって動けるようになっていきました。

### <いろいろな人の知恵を合わせた劇づくり>

年長児は、自分たちが楽しいのは大前提ですが、見てもらう人にも楽しんでもらえることを意識して劇づくりをしていました。練習やりハーサル段階では、どの学級もいろいろな形で見合う中で、いいところを褒めたり改善点を伝えたりしました。担任は、指導に悩みつつ、いろいろな先生に助言をもらうことで音楽や演出などを修正し、本番に向かっていきました。これまでの行事よりも総合的な指導力が求められるのが劇づくりです。完璧な指導や劇などありません。高みを目指してぐぜり鳴きする姿が尊いのです。



いちご組の劇を見に来たのはたんぽぽ組



この日はいちご組があんず組の劇を見学



どんなふうにも動こうか？相談します



お面や衣装を着けることでやる気がアップ



衣装や大道具もこれまでの経験を生かして自分たちで作ります



自分の出番以外にナレーションや大道具の出し入れも自分たちで



いろいろな先生に褒めてもらったり助言をもらったりしてやる気を高めます